

西垣文庫 (特)
文庫 10
73430
a



正徳
同



板倉候へ差上

御紋付
御五を
賜り
又此程ハ
十六女の
御五を
賜り
と云
又此程ハ
十六女の
御五を
賜り
と云
又此程ハ
十六女の
御五を
賜り
と云
又此程ハ
十六女の
御五を
賜り
と云

文庫
73430



岩代國福島十四丁目旅人宿
岡崎伊八八十余也有
有様長生の瑞相と
知られ多き一ツハ
玉子を加へ来て帝を渡せ
其玉子を二ツハ
切て盃とほし
一ツハ

今只
東京の
親戚へ送る
から目出度
箱おれハ此程
御巡行の
時菊の

西遊文庫

東京新富座の立者

尾上菊五郎の送り

長七とらひ休座の

はれぐし浅草

奥山の猿蓑會

中行て手おこの

程を×

忍せん

そのと

友達引

連れ大手を

ふつてぬらまへ

あー一本筋うと



起きりぬらまへ

しんげい

友達引

これから、お

這起きて

青草子

志保く

引連

出りの十七八の

別品由へ太刀討

とらひぬらまへ

從討せんと思ひいふ

ワット 声かけ

上段下段討合

太刀凡梅香の

くほり長七先生下段不

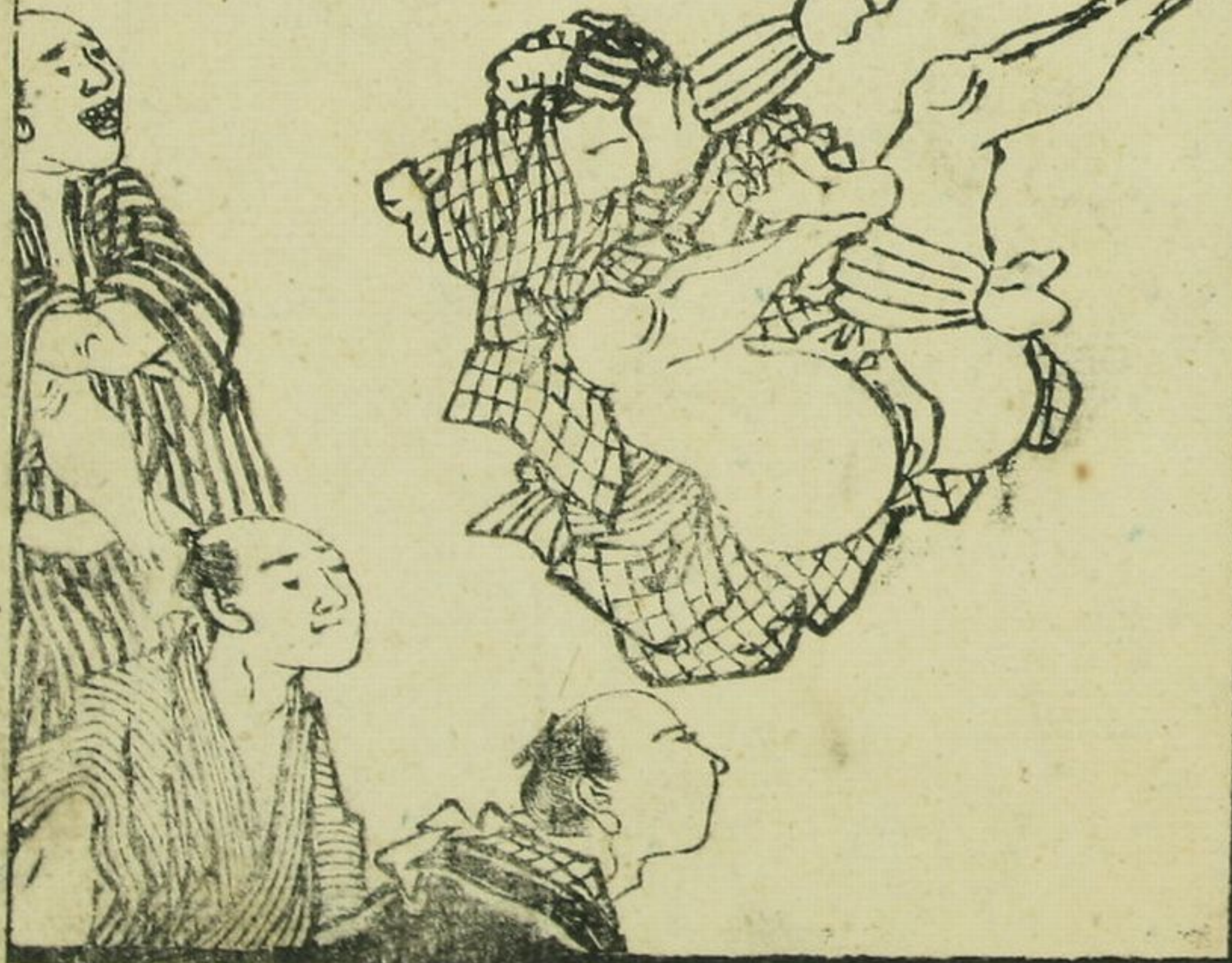
目をつけ突出を木刀を

右手みちろひ面下エイト

一本つられ大先生の真仰向

志保くが獲目かころう

甲



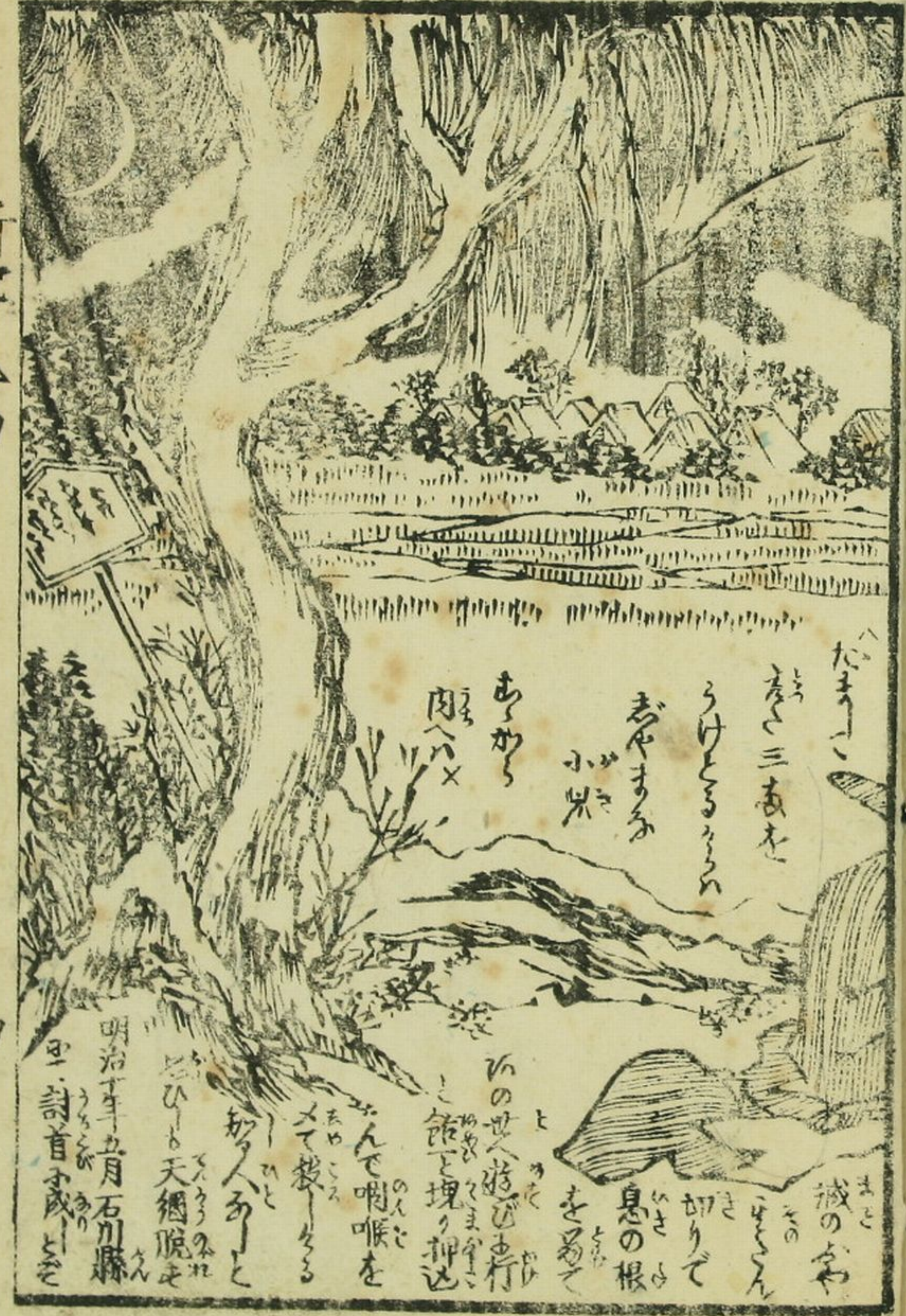


越前の国 彦根郡 彦根川 出水のほとりの 碎れ魚梁
 吹かれ柳も水も小甘れてよまごたの 間
 三月 月形の 糞桶も 糞うき
 拾げて 拾う子を



養の 育
 合と 名を
 つげ

まご小里連て
 りての 近所のおま
 伝と 伝名の 京四市
 まのも ちへも かん
 ちやと 清と
 どあそ ぐへ
 さきと
 買つて
 おこし
 引給い 余
 を 延ん
 井ひ 言葉



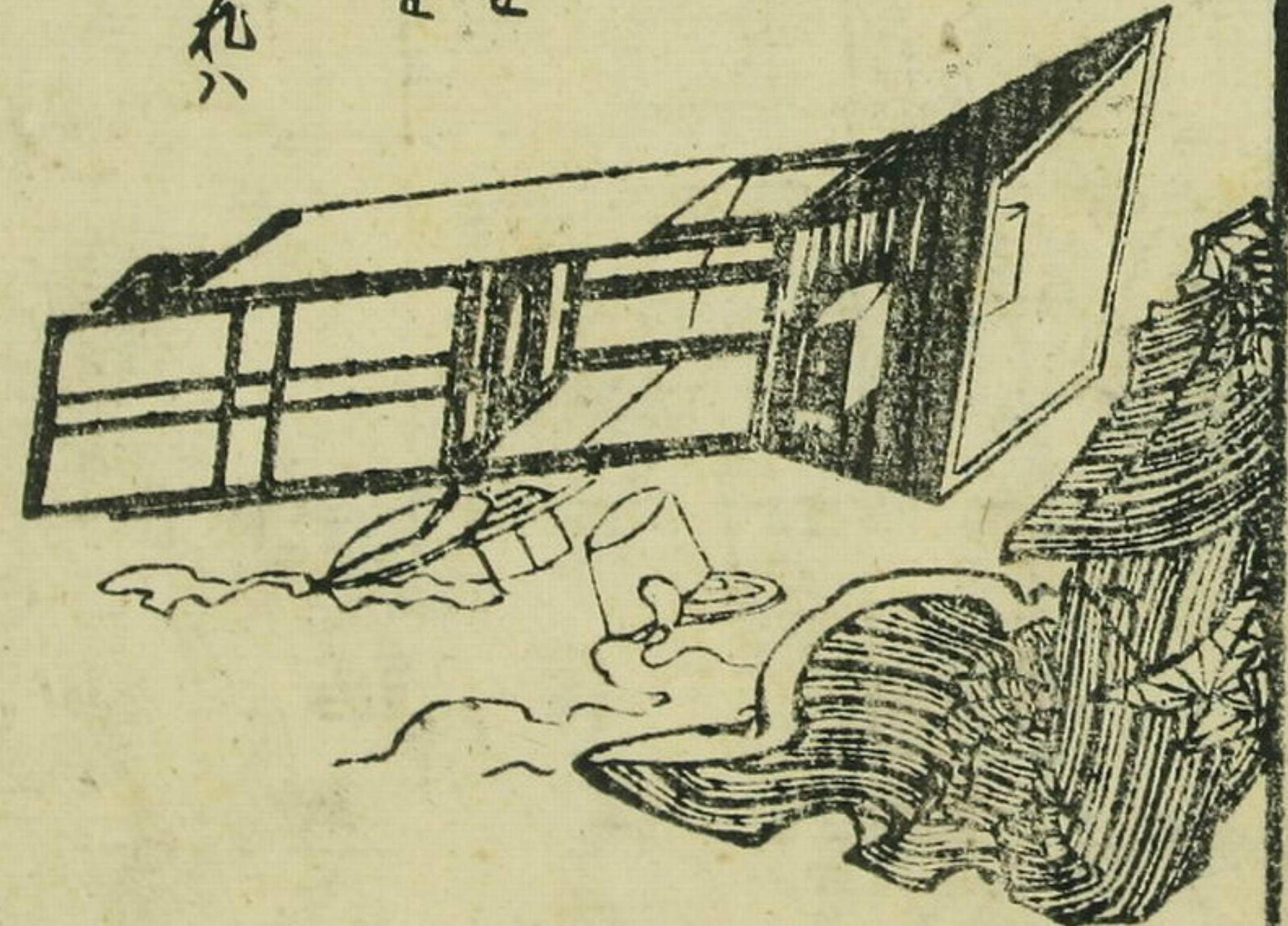
たまり
 友と 三友を
 うけとる
 ちやま
 小川
 あか
 肉ハ
 穢の名
 けりて
 息の 根
 を 易
 の世に 遊び 行
 と 籠と 塊と 押込
 んで 咽喉を
 ちやま
 妙人 ありと
 とひも 天網 脱
 明治 十一年 石川 縣
 里 討首 成と

東京
吉原町
住貨渡世
甲傳兵衛
姫おらく八年六十九の
ホツナマリ娘様とこれ髪



賊ハ駿
風口敷色
を赤汗
捨て跡
白液と
透させ

海へ先かて...
ちんちん...
盗入ハ...
起上り見れ...
大の男...
脊負...
おらくの...
女と梅...
おれ...
女のカ...
あき...
泥坊...



明治十
年六月
十三日
丁卯
丁卯

東京深川富岡町小

住居のんまかやうの

お寅子の藤林と

権吉の標合も

口傳の指先

おろし

中のそのうふ

珍町の

至之進と

祐摩おも

下之夜の

その下をのん後を

さきこらもて藤林ハ

所小守ーき目を

むきおし後町へまひ

途中お合やうらお藤林ハ

至之進し三言三言

たての双方

目々謝

来りるを春ハ

マアまのうし

あつても目々らの

桂木まきまき

不破お名古屋も

胃々同志早

あき内巡査お引れ



芳春筆

東調べのう三人

しんも十幾の

贖罪金で

車以る

とま



東京淺草區

淺草區馬道三丁目

三番地

大橋堂

見三芥子夜

